

ティーチングポートフォリオ

生活文化学科子ども生活専攻

高橋 恵美

1. 教育の責任

東北生活文化大学短期大学部生活文化学科子ども生活専攻に所属し、保育者養成課程における幼稚園教諭免許及び保育士資格取得にかかわる科目を担当している。幼稚園教諭・保育士の経験を活かし、具体的な保育の環境構成・内容・方法や、事例を挙げながら子ども理解・保育者の援助・保護者支援等を解説し指導している。

また、東北生活文化大学家政学部家政学科服飾文化専攻の教育職員免許状（家庭）にかかわる科目を担当している。家庭科教育の観点から家族の役割、地域社会の役割、園での保育について、これまでの実務経験を生かして具体的な実践方法を伝えながら指導している。

主な担当科目は以下のである。

【生活文化学科に関する科目】

(1)生活文化学科基幹科目

領域	科目名	形態	学年・時期	単位数	必修	教職必修	保育士必修
基幹	生活文化各論	講義	1年後期	2	○		

(2)子ども生活専攻 専攻科目

領域	科目名	形態	学年・時期	単位数	必修	教職必修	保育士必修
保育内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	1年後期	2			○
	保育内容総論	演習	1年前期	1	○	○	○
	保育内容（環境）	演習	1年後期	1	○	○	○
	保育・教育方法論	講義	1年前期	2	○		
	保育内容の指導法	講義	2年前期	1		○	
	保育の実技と演習	演習	2年前期	1			
保育実習	保育実習指導Ⅰ	演習	1年通年	2			○
教育実習	教育実習(事前事後指導含む)	実習	1・2年	5		○	
教職総合演習	保育・教職実践演習(幼稚園)	講義	2年後期	2		○	○

【家政学部に関する科目】

(1) 家政学科服飾文化専攻科目〈免許状取得のための科目 中一種免・高一種免(家庭)〉

領域	科目名	形態	学年・時期	単位数	教職課程必修
教科及び 教材に関する 科目	保育学	講義	3年・後期	2	○

2. 教育の理念

幼児教育・保育に関する専門的な知識を理解し、保育現場で求められる実践的な力を養うことを重視している。担当科目において、子ども理解に基づいた保育の理論を学びながら、実践的な指導力や保育に大切なコミュニケーション能力を身につけることを目標としている。さらに、子育て家庭を理解して社会の状況に関心を持ち、社会の仕組みや社会の動向を把握し対応できるようになると共に、地域や関係機関と連携しながら、子どもと家庭を支える役割を担えるような保育者を養成することを目標としている。

豊かな人間力と実践力を備えた地域の担い手として貢献できる保育者を、育成することを教育理念とする。

3. 教育の方法

上記の目標を達成するために、例えば、「保育内容(環境)」では、次のような授業を行っている。

・保育内容環境を理解するために、五感を使って体感することを重視し、学園の環境を活かし、秋の自然物を使って製作したり、秋の虫を捕まえて観察したりする経験から保育者に必要な感性を磨く機会を設けている。自身が体感したことやインターネットで自然物について調べたことを題材としてICTを活用したドキュメンテーションの掲示物を作成している。さらに、具体的な環境構成の仕方を画像等で示すと共に、指導計画における環境構成の書き方や保育実践の展開の仕方について概説している。保育実践の展開や指導案作成・記録の取り方等については、実際に保育現場で行われているICTを活用した事例も数多く挙げ、授業での知識の学びと自身の体験、保育現場での実践が結びつくようにしている。

「保育の計画と評価」の授業では、次のような授業を行っている。

・指導案立案では、毎回の授業で部分案の一つ立案している。ねらい・内容・環境構成・子どもの姿・保育者の援助・配慮について詳細を解説すると共に、2～4名のグループワークを行い、他者の意見や保育のアイデアを取り入れながら構想する。授業後は毎回作成したプリントを回収し、一人ひとりの指導案を添削している。次の授業でポイントを解説し、学生は解説部分を指導案に色ペンでチェックを入れ、書き込むよう

にしている。保育現場の状況に合わせられるよう、PC を活用した場合と手書きの記述のどちらも行えるようにしている。

その他の授業においても、手仕事・手作りの温もりを大切にしている保育現場の特徴や保育に必要な豊かな感性を育むことを重視している。昨今の保育現場の積極的な ICT 導入の現状に対応できるよう、実践に即した資料作成や視覚教材作成等を行っている。

4. 教育の成果

【学生による授業評価】

令和 6 年度授業評価アンケートの結果は以下の通りである。担当科目の全てにおいて、4.4 以上の結果であった。

担当科目名	回答数	開講時期	総合評価値
保育の計画と評価	12	1 年前期	4.52
保育内容総論	13	1 年前期	4.43
保育内容（環境）	12	1 年後期	4.52
保育内容（表現Ⅱ）	13	1 年前期	4.46
保育内容の指導法	21	2 年前期	4.49
保育の実技と演習	22	2 年前期	4.41
保育実習指導Ⅰ	12	1 年通年	4.57
保育学	7	3 年後期	5

5. 教育の改善と今後の目標

- ・各科目の授業や実習指導を行うにあたって、自分自身も保育の現状や動向を把握し、さらに専門的知識を高めていきたい。
- ・学生が自信をもって実習に取り組み、将来保育の仕事に就けるよう、ボランティア活動等の経験ができる場を増やして子どもと触れ合う機会を作り、地域と連携しながら学生のサポートをしていきたい。
- ・保育の仕事の魅力を伝えられるよう、オープンキャンパスやガイダンス等で発信していきたい。